おいしい時間 そば・うどん　増田屋

地元で親しまれ57年、自家製麺のそばやうどん

「挽（ひ）き立て、打ちたて、ゆでたて」をモットーに、自家製麺したそばやうどんを提供、57年にわたって地元の人に親しまれている。

30数種のうどん・そば、ラーメンなどの麺類をはじめ、約10種の丼物、定食などバラエティーに富んだ50種以上のメニューがある。冬は鍋焼きうどん、カレー南蛮、鴨南蛮などが人気で、関東では珍しいにしんそばも好評だ。

❶

店内の石うすでそば粉を毎日製粉するほか、味の基本となるだしは本カツオ、ソウダカツオ、サバの3種の合わせだしを使っている。

増田屋のれん会の店で腕をみがいた初代の桜井博さん（故人）が昭和43年に開業。近くの都営狛江アパート（狛江団地）の入居が同時期に始まり、以来団地や付近の住民に親しまれてきた。狛江通りの拡幅を機に店を新築、現在は娘婿の高橋久さんが跡を継いで、のれんを守っている。店内はテーブル６卓のほか、畳の小上がり席があり、家族連れに好評だ。また、周辺地域へ出前をしており、重宝がられている。

❸

大みそかには年越しそばのテイクアウト、出前の注文を受け付けているが、数に限りがあるため、早めの予約を呼びかけている。

高橋さん

❷

MENU（税込）
❶鍋焼きうどん¥1,200❷鴨南蛮¥1,000❸カレー南蛮¥900、かけ¥620、もり¥620、ざる¥720、きつね¥680、とろろ¥900、にしん¥980、天ぷらそば¥1,000、天ざる¥1,500、玉子丼¥850、親子丼¥980、かき揚げ定食¥1,250、カツ重定食¥1,250、天重定食¥1,350

☎3480-1410　中和泉5-14-13　営業＝午前11時15分～午後2時45分、5時～ 8時（終了時間はラストオーダー）　木曜休み、12月31日㈬まで営業、新年は1月5日㈪から

ひろがれ絵手紙の輪

新人職員が絵手紙に挑戦

絵手紙をかく職員

狛江市の新人職員を対象に絵手紙研修が11月11日㈫に防災センターで行われた。

シビックプライド養成研修の一環で、職員が狛江の文化への理解を深めることが目的。今年度入庁した職員39人が参加、「絵手紙発祥の地－狛江」実行委員会の３人の委員から狛江市が絵手紙発祥の地になった経緯や絵手紙の基本的な知識や心構え、筆の持ち方などを教わった後、葉書に落ち葉や柿などをかいた。

参加した職員たちは真剣な表情で筆を走らせながら「絵をかくのは久しぶりだけど、とても楽しかった」「たくさんの人に絵手紙のおもしろさや良さを伝えたい」などと話していた。

狛江ビールめざして大麦の種まき

大麦の種まき

狛江産ビールの材料となる大麦の種まきが11月15日㈯に市民も参加して駒井町の畑で行われた。

平成29年からビールの醸造を行っている籠屋秋元商店（秋元慈一社長）が、素材から狛江にこだわったビールを作りたいと、今回初めて大麦の栽培にチャレンジした。ビール愛好家や小学生など24人が約2,000㎡の畑の半分に「ニューサチホゴールデン」という名の二条大麦の種をまいた。発芽から収穫まで約６カ月かかるが、参加者はその間に麦踏みなどを体験する。収穫後は麦芽にし、狛江産のホップを使ってビールを醸造するという。

東京農業大学醸造科を卒業した秋元社長は「地元産の材料を使った狛江のビールを市民参加で作るのが以前からの夢だったので、実現に近づけてうれしい」と話している。

こまえみらいテラス 文化育む拠点に一新

狛江市の新たな文化交流拠点となる「こまえみらいテラス」が11月１日㈯にオープンした。市民センターを全面的にリニューアル、中央公民館、こまえみライブラリー（図書コーナー）、市民活動支援センターの複合施設として再スタートをきった。

入口で松原俊雄市長、三角武久市議会議長、施設利用者として小学生など4人がテープカット。ウッドテラスでは狛江第一中学校吹奏楽部が「ハピネス」など５曲を演奏した。

松原市長は「文化を育むまちとしてこのみらいテラスを中心に人と人が交流できる場所、学習の中心となる場所として多くの市民に使ってもらうとともに、子どもたちが未来に羽ばたける場所になってほしい」と挨拶した。

訪れた人たちは早速館内に入り、明るく一新された施設の各所を見て回っていた。

同館は1階が交流・コミュニティフロア、2階が会議・学習フロア、地下1階が活動・イベントフロアになっており、多目的室やスタジオ、和室、音楽や演劇の練習、調理、工芸などに使えるスタジオ、ホール、フリースペースなどがあり、様々な文化活動に使えるよう配慮されている。

みらいテラスのテープカット

にぎやかに狛江市民まつり 約8万人が多彩な催し楽しむ

第49回狛江市民まつり（同実行委員会主催）が11月16日㈰、狛江第一小学校、狛江市役所、市民グランド、たかちゃんえきまえ広場、エコルマホールなどで催され、約80,000人が楽しんだ。

市民まつりのみこしパレード

小学校鼓笛隊などのパレードと市内の神社とボーイスカウトのみこし７基とはやしが本町通りなどを練り歩き、祭ムードを盛り上げた。一小のふるさとステージではヒーローショーや郷土芸能のはやし競演、ジャズなどが披露された。校庭では農産物品評会、野菜や果物など約1,200点で作った宝船が展示され、宝分けでは葉ボタンも配布され、長い列ができていた。ふるさと友好都市の新潟県長岡市川口地域、住民交流友好都市の山梨県小菅村などの物産展や市民団体などの出店に列ができていた。体育館ではミニ四駆の製作とレースが行われ、子どもたちの人気を集めていた。

本町通りではストリートライブ、踊り、消防ふれあい広場、こまバスの展示などが行われた。

市役所のおたのしみ広場では、こまえみらいテラスで狛江市芸術協会による市民創作展が催され、訪れた人たちが力作を静かに鑑賞していた。市民ひろばのテントでは市民団体や市内の商店、狛江市観光協会の展示や販売などが行われた。

たかちゃんえきまえ広場では市内の事業所などが商品や飲食物を販売した。

エコルマホールではエコルマステージが催され、都立狛江高等学校ダンス部など10団体がダンスと音楽を披露した。

市民グランドでは家族連れなどがトランポリン、キックターゲットなどを楽しんだ。

ヘルマンさんの紙芝居 ２種を狛江市に寄贈

ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡をたどる会（飯田吉明代表）が、日本の食肉加工技術の向上に貢献し、狛江に工場を建ててハム、ソーセージを製造したヘルマンさんを描いた２種の紙芝居を11月12日㈬に狛江市へ寄贈した。

紙芝居は昨年度の狛江市市民公益活動事業チャレンジ補助金で、幼児から小学校低学年向き12枚組の「ヘルマンさんのソーセージ」と小学校高学年から大人向け26枚組の「ヘルマンさんのおはなし」を制作した。主に児童が利用する「こまえみライブラリー」が11月1日㈯にオープンしたのに合わせて寄贈した。

紙芝居は、狛江出身でドイツ在住の同会会員土肥由美さんが独訳し、ヘルマンさんの生まれ故郷のゼンフテンベルク市にも昨年秋に贈呈。９月にゼンフテンベルク市庁舎でヘルマンさんに関する特別展示会や紙芝居が上演された。両市では、市長同士がメッセージを送るなど交流が始まっている。

贈呈式には、低学年向けの紙芝居を制作した元狛江第五小学校校長の石谷清隆さんや土肥さんら８人が参加した。松原市長は「紙芝居は大切に使い、ヘルマンさんについて多くの市民に知ってもらいたい」と喜んでいた。

紙芝居の贈呈。（左から）松原市長、飯田代表、石谷さん

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市政策室へ